

都市再生整備計画(第3回変更)

さきしま 咲洲コスモスクエア地区 ちく

おおさかふ 大阪府 おおさかし 大阪市

平成21年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大阪府	市町村名	あさかかし 大阪市	地区名	あさかしほ 咲洲コスモスクエア地区	面積	110 ha
計画期間	平成	17	年度	～	平成	21	年度
交付期間	平成	17	年度	～	平成	21	年度

目標

大目標：既存の先端技術開発や国際交易・情報通信関連施設・企業の集積を活かすとともに、臨海部の特性を活かして、人・物・情報が交流する「アジアの交流拠点」としての一翼を担う
 目標1：ペDESTリアンデッキ等の整備により、交通安全性、歩行者の快適性の向上を図る
 目標2：情報通信基盤の充実により、新たな進出事業者、居住者や来訪者、区内従業者が、高度で多様な情報通信サービスを受用できる環境を整える
 目標3：「咲洲コスモスクエア地区立地促進助成制度」の活用等により企業等の立地を促進し、まちの賑わいの創出等、地域の活性化を図る

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・大阪臨海部における新たな都心形成をめざす「テクノポート大阪」計画の先導的役割を担う当地区では、国際交易、先端技術開発、情報通信等の多様で高度な都市機能の集積を図るとともに、臨海部の特性を活かした親水空間を創出し、快適で魅力ある都市環境を備えたまちづくりを進めてきた。
 ・その結果、コンベンション施設や先端技術開発関連企業、様々なビジネスサポート機能の集積が進むとともに、周囲を取り囲む海や地区内を貫く咲洲キャナルといった親水空間、地区内の歩行者ネットワークを形成する緑地・緑道などのアメニティ環境の整備が進んでいる(平成15年度咲洲キャナル供用開始)。
 ・一方、昨今の景気低迷の影響から、地区北部を中心に開発がされず未利用地として残っているものも多い。そこで、民間企業の初期投資を抑えることを目的に、平成16年度から開発インセンティブ(本地区内の市有地を購入し、本市が定める産業分野の事業所を整備する事業者に対し、用地取得費の一部を助成)を導入し、開発促進を図っている。
 ・進出企業数：25社(テナントは含まず)
 ・従業者数：約13,000人
 ・年間来訪者数：約1,000万人程度

課題

・大阪港咲洲トンネル及び鉄道による都心からのアクセスが容易であるとともに、阪神高速湾岸線により関西国際空港から神戸に至る交通ネットワークが充実している一方、地区内においては、地区周辺にコンテナ埠頭が立地していることもあり、トレーラ等物流動線と歩行者動線が一部箇所において輻輳している。また、地区計画等において、コスモスクエア駅前の一部に住機能の導入を図ることとしたが、コスモスクエア駅や学校等への安全な歩行者ネットワークの確保が必要である。
 ・人、物、情報が交流するアジアの交流拠点の形成をめざす一方、地区北部については、情報基盤が未整備であり、新たな進出事業者、居住者や来訪者、区内従業者の、通信端末機器を用いた情報の受発信が制限されている。このため、新たな進出事業者、居住者等が、高度で多様な情報通信サービスを受用できる環境を整えることが必要である。

将来ビジョン(中長期)

・咲洲コスモスクエア地区地区計画では、「港湾施設と連携した人、もの、情報の国際交易・交流拠点及び先端技術開発、情報通信等、新しい産業の創造・育成を図る研究開発拠点の形成につながる諸機能を導入するとともに、これらの機能を支える居住等の生活利便機能を適切に配置し、複合的な市街地整備を図る」「水辺の特性を活かした魅力的な空間の創出と安全で快適な都市空間の形成に向け、良質なオープンスペースの確保や人と車の適切な道線確保に必要な環境整備等に努める」ことを土地利用の基本方針としている。
 ・都市再生緊急整備地域の地域整備方針において、大阪コスモスクエア駅周辺地域として、「交易施設と連携した、人・もの・情報の国際交易拠点を形成」「情報・先端技術開発関連等の業務・学術・研究開発拠点を形成」「既存の物流機能に配慮しつつ、文化施設、レクリエーション機能、居住機能等の導入による複合市街地を形成」「ペDESTリアンデッキやキャナル沿いの歩行者通路等の整備による歩行者ネットワークの形成」「国際交易拠点や研究開発拠点等の形成に資する情報管路等の情報通信基盤の整備」を位置付けている。
 ・今後、ATCやWTC、インテックス大阪等既存施設の活性化とともに、世界から人が集まる場にふさわしいにぎわい空間を演出することにより、まちの集客力を高め、多様なビジネスチャンスを生創造し、アジアの交流拠点の形成をめざす。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
コスモスクエア駅利用者数	百万人/年	コスモスクエア駅利用者数(乗り換え含まず)	ペDESTリアンデッキ等の整備による歩車分離により交通安全性、歩行者の快適性の向上を図り、歩行者ネットワークで結ばれる地区内及び南港ポータウン内居住者等のコスモスクエア駅利用者数の4割増を目指す。	3.9	平成15年度	5.5	平成21年度
参入情報通信事業者数	社	地区北部の住機能導入エリアにおける参入情報通信事業者数	公共が光ファイバー等情報管路収容空間のルート整備を行うことにより、現在キャリアフリーになっていない咲洲コスモスクエア地区北部の環境を改善し、公正な競争環境下で通信事業者による情報通信基盤の整備促進を図る。これにより、新たな進出事業者や居住者等が、高度で多様な情報通信サービスを受用できる環境を整える。	1	平成16年度	3	平成21年度
土地利用面積率	%	地区内における宅地面積に占める土地利用面積の割合	情報インフラの整備により、まちの付加価値を高め、また、開発インセンティブを導入することにより、民間企業の開発意欲を促進し、地区の賑わい形成の拠点となる民間企業等の土地利用面積を、宅地面積に対する割合にして70%を目標に増加を図る。	63	平成16年度	70	平成21年度
地区内居住者数	人	大阪市住民基本台帳に基づく地区内居住者数	歩行者ネットワークの整備、情報インフラの整備などによりまちの魅力を高め、現在ほとんど存在しない地区内居住者数を、研究開発拠点における類似事例(居住人口と従業人口の割合)である居住者数3000人を目標に増加を目指す。	90	平成16年度	3000	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(交通安全性、歩行者の快適性の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 住機能の導入に伴い、コスモスクエア駅や学校等への安全な歩行者ネットワークを確保する。このうち、物流動線と歩行者動線が交差する一部箇所においては歩車分離を目的とするペDESTリアンデッキ等を整備する。 	<p>高次都市施設(基幹事業/人工地盤等)、高質空間形成施設(基幹事業/歩行支援施設)、高質空間形成施設(基幹事業/緑化施設等)、地域生活基盤施設(基幹事業/情報板)</p>
<p>整備方針2(新たな進出事業者や居住者等への高度で多様な情報通信サービスの提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報通信サービスが現在キャリアフリーになっていない地区北部において、新たな進出事業者、居住者や来訪者、地区内従業者が通信端末機器を用いた情報の受発信を行う際、高度で多様な情報通信サービスを楽しむことができる環境を整えるため、情報通信管路を埋設する。 	<p>高質空間形成施設(基幹事業/電線類地下埋設施設)</p>
<p>整備方針3(企業立地促進によるまちの賑わいの創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行者ネットワークの整備、情報インフラの整備等によりまちの魅力を高め、あわせて開発インセンティブの導入等により企業立地を促進し、まち全体としての集客力を高めることで、まちの賑わいの創出等、地域の活性化を図る。 	<p>高次都市施設(基幹事業/人工地盤等)、高質空間形成施設(基幹事業/歩行支援施設)、高質空間形成施設(基幹事業/電線類地下埋設施設)、咲洲コスモスクエア地区立地促進助成制度(関連事業、市)、咲洲コスモスクエア地区のまちづくりの推進(提案事業、市等)、高質空間形成施設(基幹事業/緑化施設等)、地域生活基盤施設(基幹事業/情報板)</p>
<p>その他</p> <p>継続的なまちづくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 当地区では、大阪市及び地区内企業を中心に「コスモスクエア開発協議会」を設立しており、案内板の設置や施設間でのイベント等の共同開催を行うなど、来訪者や地区内従業者の回遊性を高める取り組みを行っている。 	

都市再生整備計画の区域

<p>咲洲コスモスクエア地区(大阪府大阪市)</p>	面積	110 ha	区域	住之江区南港北1丁目、南港北2丁目の一部
----------------------------	----	--------	----	----------------------

